



現場最高の 力。

CSR Report 2013-2014

Corporate Social Responsibility Report

鴻池組CSR報告書 [ダイジェスト]



■ 本社ならびに本支店所在地

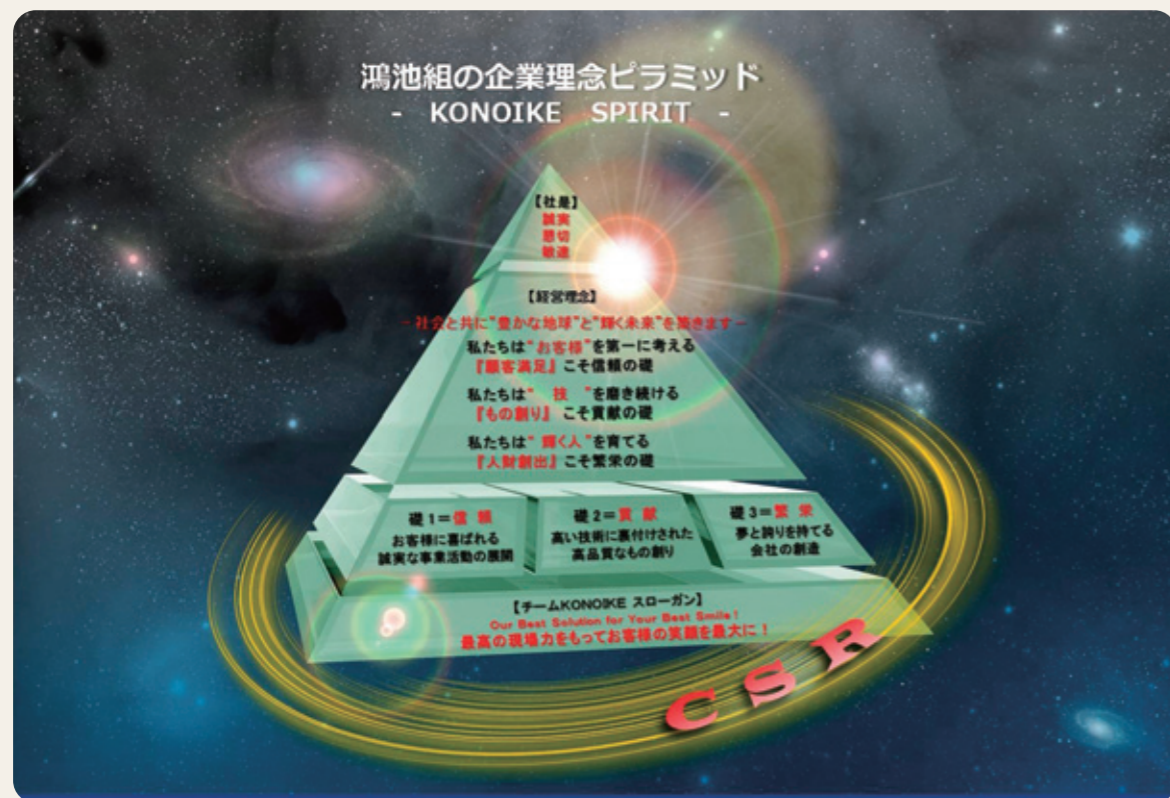
本社・大阪本店	〒541-0057	大阪府大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
東京本店	〒136-8880	東京都江東区南砂2-7-5
北海道支店	〒060-0061	北海道札幌市中央区南一条西14-1
東北支店	〒980-0021	宮城県仙台市青葉区中央2-9-27
横浜支店	〒231-0013	神奈川県横浜市中区住吉町4-45-1
名古屋支店	〒460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-19-1
京都支店	〒604-0857	京都府京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町267
神戸支店	〒650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通4
広島支店	〒730-8533	広島県広島市中区八丁堀2-31
山陰支店	〒690-0887	島根県松江市殿町516
九州支店	〒810-0041	福岡県福岡市中央区大名1-14-45
南九州支店	〒892-0825	鹿児島県鹿児島市大黒町2-11
海外支店	〒136-8880	東京都江東区南砂2-7-5
技術研究所	〒305-0003	茨城県つくば市桜1-20-1

本レポートの環境配慮について
用紙は、適切に管理された森林から出荷された木材を含む森林認証紙を使用し、
インクは、VOC(揮発性有機化合物)の発生を低減する大豆油インクを使用、
有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。



私たちのCSR

私たちは、社会を構成する一員として、常に高い志を持ち、責任と自覚を持った誠実・公正な行動を心がけます。そして、鴻池組に関わる全ての人々からの信頼を獲得し、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる会社を築いていきます。



社是三則を頂点とする鴻池組の企業理念ピラミッドの根底には、CSRの理念があります。公正な企業活動を通じて、鴻池組を取り巻く様々な人々との信頼関係を育み、良好な関係を保つことがCSRの基本です。その為にも、私たちは「誠実、懇切、敏速」の社是三則および「顧客満足、もの創り、人財創出」の経営理念を支える三つの礎「信頼の礎」「貢献の礎」「繁栄の礎」を行動指針として定めています。これまで培ってきた建設という「もの創り」の技術と経験を生かして、人々が豊かで安心して暮らせる社会に資すること、それが「私たちのCSR」です。

●編集方針

鴻池組は協力会社の皆様と一丸となった「チームKONOIKE」として、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」をスローガンに、社会へ貢献していくことを目指しています。

CSR活動についてはウェブサイトをメインの報告媒体としていますので、本冊子では自然災害からの復旧・復興への取り組みと「最高の現場力」をテーマにウェブサイトにて掲載しました活動をダイジェスト版として報告させていただきます。

●対象範囲

期間：2012年度・2013年度（2011年10月1日～2013年9月30日）
ただし、当該期間以外の情報も一部掲載しています。

●鴻池組ホームページ

<http://www.konoike.co.jp/>

Contents

社長メッセージ	P02
復旧・復興への取り組み	P03
PICK UP 最高の現場力	P05

最高の現場力をもって
お客様の笑顔を最大に!

代表取締役社長 蔦田 守弘

— 社会と共に“豊かな地球”と“輝く未来”を築きます —

- 私たちは“お客様”を第一に考える『顧客満足』こそ信頼の礎
- 私たちは“ 技 ”を磨き続ける 『もの創り』こそ貢献の礎
- 私たちは“輝く人”を育てる 『人財創出』こそ繁栄の礎

鴻池組は2014年度期首にあたり、社是「誠実・懇切・敏速」のもと経営理念を刷新しました。

この理念の基盤にはCSRの考えがあります。社会との調和、環境への配慮、安全・安心の提供を当社の事業領域で最大限行うよう努力してまいります。

建設業は「地域に溶け込んで仕事を行う」という特徴があります。当社の建設現場では現場説明会や見学会などの開催や地元の行事への参加など「地域社会との共生」を常に心がけています。このような取り組みにより建設現場へのご理解を深めさせていただくとともに、建設業の魅力を発信することにもつながると考えています。お客様をはじめ地域社会、株主、協力会社の皆様、そして従業員といったステークホルダーから信頼を得て、良好な関係の構築に努めてまいります。

また「環境に直接手を加える」という建設業の特性から、「環境との共生」には大きな責任を負っています。環境への負荷の軽減対策はもとより、当社は積極的に環境技術の開発に取り組み、国内初となるPCB廃棄物の現地無害化処理を実施しました。その他にも産業廃棄物の不法投

棄問題に対処するなど、今後も環境保全・修復事業に取り組んでまいります。

近年、東日本大震災や大型台風の上陸、ゲリラ豪雨などにより、大きな被害もたらされています。また高速道路のトンネル天井板崩落により関心が高まっているインフラの老朽化への対策も喫緊の課題となっています。建設業は人々の安全・安心な生活のために、自然災害からの防災・減災対策、老朽化インフラ対策に取り組み、良質な社会資本整備に貢献していかなければなりません。当社は東日本大震災直後から現地での復興事業に取り組んでまいりましたが、一日でも早い復興のために引き続き全力を挙げるとともに、今まで培ってきた技術と豊富な経験を活かして、災害への備えやインフラの長寿命化、更新のために既存技術の研鑽、新技術の開発に注力いたします。

海外においては道路、水道などの整備が遅れている国々がまだまだ多くあります。当社はそのような国のインフラ整備を、これまで数多く実施してきました。今後もそこで暮らす人々の生活を支える社会基盤整備の一端を担うべく力を尽くしてまいります。

以上のような考えのもと、当社がすべきことはまだまだたくさんあります。当社と協力会社が一丸となり「チーム KONOIKE」として

最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!
Our Best Solution for Your Best Smile!

をスローガンに、今後も社会に貢献し、皆様にご満足いただけるよう取り組んでまいります。

宮城県仙台市
宮城野区蒲生地区での
取り組み

排水機を新設し、 沿岸での農業再開に貢献

東北地方の海岸沿いには広大な農地が広がっており、浸水防止のため、排水機場が設置されています。しかし先の東日本大震災・大津波により排水機場は壊滅的な被害を受け、農業を営むことが不可能となりました。仙台市宮城野区蒲生地区でも排水機場が崩壊しました。当社は東北農政局より高砂南部排水機場復旧工事を受注し、排水機場の新設復旧に取り組んでいます。

工事内容は、洪水用3基・常時用1基のポンプを有する排水機場新設工事であり、本体コンクリート2,000m³・基礎杭68本（PHC杭）を有する鉄筋コンクリート構造物、2m×1.4m二連プレキャストBOX L=34m、SRC造の建築上屋他、土木・建築一体の工事です。

工事に際しては、異常豪雨等による出水時の排水・安全対策に特に注意を払い施工を進め、一日でも早い復旧に努めております。資機材・労務ともにひっ迫しており調達が困難ななか、今春からの営農再開に向け、土木・建築職員一丸で鋭意工事進行中です。



積雪がある中も続く工事



挿門の建設状況

宮城県多賀城市での
取り組み

津波からの避難機能を持つ 住宅を整備します

宮城県仙台市の北東に位置する多賀城市は東日本大震災の津波により市内の3分の1が海水に浸かるなど多大な被害に見舞われました。当社は多賀城市より災害廃棄物の中間処理業務を受託し、2012年2月の中間処理の本格開始から11カ月で、約14万トンの災害廃棄物の処理を完了、リサイクル率は80%以上に達しました。多賀城市からはこの業務を通じた復旧活動に対して感謝状を受領しました。（詳細は http://www.konoike.co.jp/works/egao_library/detail/000953.html）



感謝状



完成予想図（パース）

その多賀城市では復興に向け、災害公営住宅を整備する予定です。当社はその中で最初の物件である都市再生機構発注の桜木地区災害公営住宅建設工事を施工しています。津波で浸水した区域での建設という点に配慮され、津波避難ビル機能を有し、また1階は各棟、階高が4.5mあり、駐車場、駐輪場、物置、集会室が設けられ、生活を営む住戸は全て2階以上に配置され、万が一の場合にも被害が最小限に抑えられる計画となっています。多賀城市の被災者はもちろんのこと、復興に大きく寄与する工事であり、安心して住みやすい街を1日も早く提供できるように、職員・作業員が一丸となり取り組んでいます。

復旧・復興へ

の取り組み

宮城県亶理郡山元町での
取り組み

地域に親しまれる現場で、 早期の住宅供給へ

山元町は宮城県東南端の太平洋沿いに位置し、いちご・りんご、ホッキ貝が名産の自然豊かで長閑な街でした。しかし、先の東日本大震災・大津波に襲われ、多くの家屋が崩壊し、被災者の方々が今なお仮設住宅での生活を強いられています。

当社はこの山元町の復興を担うべく、2013年6月新坂元駅周辺地区の市街地整備工事を設計・施工一括発注方式で受注しました。工事は、9.1haの造成工事と計画戸数99戸のうち50戸の災害公営住宅を築造するものです。現在地盤改良工を施工中で、被災者への早期住宅供給を目指し、「『チーム山元』心を一丸に」を合言葉に職員一同が一丸となって取り組んでいます。また、工事期間中は、山元町のご当地キャラクター「ホッキーくん」をマスコットに、インフォメーションセンターの運営・HP開設・見学会を開催し、地元住民とのコミュニケーションを図り、地域に親しまれる現場運営を行っています。



新坂元駅周辺地区市街地イメージ図
(データ提供:山元町)



トラックのマスコットに山元町のゆるキャラ・ホッキーくん

奈良県吉野郡十津川村
長殿地区での
取り組み

台風による土砂被害への 緊急・恒久対策を実施

2011年9月の台風12号によってもたらされた大雨により、奈良県吉野郡十津川村長殿地区に河道閉塞箇所（土砂ダム）が発生しました。この土砂ダムは崩れた大量の土砂で形成されているため不安定であり、大雨によって土砂ダムが崩壊して土石流を引き起こすことが懸念されていました。そこで土砂ダムの崩壊を防ぐために当社は堤頂部並びに堤体斜面部に仮の排水路を築造する緊急対策工事を施工し、2012年11月に完成しました。

（詳細は http://www.konoike.co.jp/works/konoike_diary/detail/000682.html）

現在、当社は、地域がより安全・安心な環境となるために、恒久対策工事を引き続き施工しています。



完成した緊急対策工事



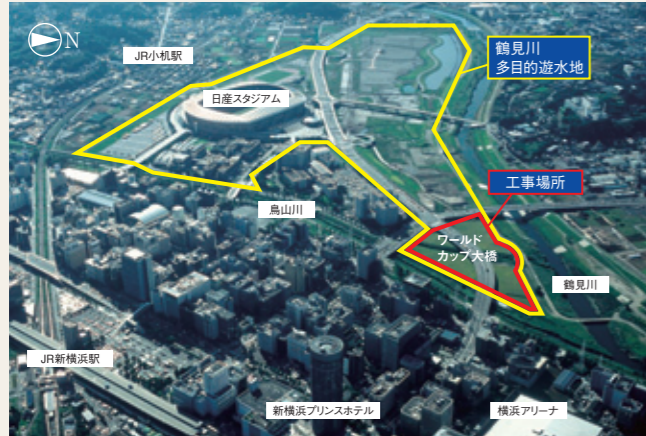
恒久対策工事の状況

PICK UP
01

最高の現場力×国内初、PCB廃棄物を現地処理

PCB廃棄物を市街地において現地無害化処理 大都市横浜で鶴見川遊水地の環境を改善

本事業は国土交通省と横浜市のご共同事業で、横浜市港北区の鶴見川多目的遊水地内に埋設保管されていたPCB特別管理産業廃棄物を、現地にPCB廃棄物処理施設を設置して無害化処理した日本で初めての工事です。



鶴見川多目的遊水地と工事施工場所

鶴見川遊水地土壌改良工事

横浜市のJR新横浜駅北側に位置する鶴見川多目的遊水地は、鶴見川下流域の洪水対策を目的として、国土交通省が平成6年から工事を進めてきた施設で、その敷地内には日産スタジアムや野球場、テニスコートなどを含む横浜市新横浜公園があり、多くの市民でにぎわっています。この遊水地建設工事の過程でポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」と称す）などの有害物質及び異物（木材、プラスチック、がれきなど）が混在している土砂が発見されました。当時は、PCBの処理技術が国内では確立されていなかったため、遊水地の敷地内に埋設保管されました。

その後、PCBを含む異物混入土の無害化処理技術が各社で開発され、公募20技術の中から鴻池組の提案した「ジオスチーム法TM」*1が選ばれ、当社が受注しました。工事は、PCB汚染物を外部搬出しない「現地処理」を前提としました。

横浜市条例に基づく環境影響評価を事前に実施し、処理施設のすべてをテントで覆うなど周辺環境への影響を最小限に抑えるように配慮しました。本工事は、5,828m³ (9,248t) に及ぶPCB廃棄物の処理を国内で初めて現地で無害化処理を行った事例で、工事中は情報公開室を設置して周辺住民の方への工事状況の情報発信を積極的に行いました（実処理：H24.2～H25.6）。

*1 ジオスチーム法は（株）東芝の登録商標です。



テント内に設置された無害化処理施設

INTERVIEW

内屋 雅樹 1995年入社 工学部・機械工学科卒業

各分野の専門家が集結し、無事完工しました。

市街地の真ん中で、日本で初めての現地PCB廃棄物処理。処理運転中（24時間×10日間連続運転の繰り返し）は、この工事の重要性から緊張の連続でしたが、当社が誇る各分野の専門家（土木、機械、電気、環境）が集結し、最高の現場力で全量の処理が完了した時は、本当に感動を覚えました。



さらに詳しく知りたい方は、こちらのURLをご覧ください

http://www.konoike.co.jp/works/konoike_diary/detail/000753.html
<http://www.konoike.co.jp/et/detail/000992.html>

PICK UP
02

最高の現場力×世界中に安全な水を届けたいという思い

施設内の電力をマイクロ水力発電が担う浄水場で、 環境にやさしく安全な水を供給

水がなければ人は生きていけません。世界には、バケツ一杯の水のために半日以上の時間を費やす人がたくさんいます。そんな人たちの手にきれいな水を届けたい、そして余った時間を生産的に使ってほしいという思いを込めて施工しました。



完成した浄水場

ケニア・エンブ市および周辺地域 給水システム改善計画

アフリカ大陸東部に位置するケニアの首都ナイロビは高層ビルが立ち並ぶ発展した都市です。しかし、当社が工事を行ったエンブ市という都市は、ナイロビから北東へ約140kmに位置する東ケニア主要都市の一つなのですがインフラ整備が進んでいませんでした。日本の無償援助による今回の「エンブ市及び周辺地域給水施設増築計画」は給水量を23,000m³/日まで増やし、現在6.0万人の給水人口を約3倍の19.3万人まで増やすものでした。

建設場所はケニア山（標高5,199m）の麓であるため、その傾斜を利用して、取水から給水までをすべて自然流下で水を流します。ただし、浄水場内の逆洗浄用の水を高架タンクにあげるポンプへの電気が必要となるため、施設内の電気を自給できる水力発電設備を設置しました。これによって、浄水場運営のランニングコストは、ケニア国内の他の浄水場と比較しても、格段に安く、かつ安全な水を配ることが可能となりました。工事完了、引き渡し後は、蛇口から出ていた茶色い水が透明になり、断水もなくなり、エンブ市およびその周辺の人々から大変感謝されました。



エンブ市の位置



ケニア山

INTERVIEW

小林 亘 1993年入社 工学部土木工学科卒業

1日も早くきれいな水を届けたい。

アフリカの開発途上国では、建設用の重機などは海外からの輸入に頼っており、非常に高価な物になります。従って日本であれば重機や機械による作業が主となりますが、ここではほとんど重機を使用せずマンパワーで作業を進めました。一人ひとりの「1日も早く水を待っている人たちに」という思いを結集し、完成させました。



さらに詳しく知りたい方は、こちらのURLをご覧ください

http://www.konoike.co.jp/works/konoike_diary/detail/000711.html

PICK UP
03

最高の現場力×確かな経験と技術により文化遺産を未来へ

古都・鎌倉の趣を伝える切通を最新の技術で保存

なごえきりどおし
中世鎌倉時代のたたずまいが今も残る「名越切通」。この貴重な文化遺産を後世に伝え、守り、安全に活用するため、鴻池組が蓄積する技術と経験を活かし、保存整備を行いました。

名越切通大切岸の保存整備

名越切通は、源頼朝により切り開かれた中世都市・鎌倉に通じる交通路の遺跡として、国の史跡に指定されています。鴻池組では、この「切通」を文化遺産として後世へ継承するための保存整備と、遺跡を訪れる見学者の安全を守る対策を行いました。高さ約8m、長さ約20mに連なる「大切岸」と呼ばれる垂直崖面と大小2つの岩穴が連なる「やぐら」を対象に、岩質強化処理による風化作用軽減処置、亀裂充填による崖面補強、樹脂ネットなどによる崩落防止対策が主な工事でした。特に、往時のたたずまいが残る景観が、施工により損なわれることのないよう、蓄積してきた技術と経験を活かし、地層模様を再現し、母岩と同じ様相の風化が進む擬土処理を行いました。2013年度も引き続き、大切岸の東側崖面を対象とした保存整備を行いました。



名越切通大切岸保存整備範囲



やぐら凹部の補強前

充填補強／擬土処理後

さらに詳しく知りたい方は、
こちらのURLをご覧ください <http://www.konoike.co.jp/news/2013/20130418848.html>

東日本大震災により被災した石造文化財を修復

岩手県釜石市橋野町にある国指定史跡「橋野高炉跡」の一番高炉は、東日本大震災により被災し、大きな損傷を受けました。鴻池組では、これまでの文化財保存修復で培った技術を活かし、一番高炉石組の修復業務を受託・施工しました。

国指定史跡「橋野高炉跡」の一番高炉石組を修復・復元

一番高炉石組は、外周5.5×5.5m、高さ2.7mで36個の積石によって構成された石造構造物です。この石組は、幕末に建設され、明治初期に廃炉となって以降、屋外に設置されている影響から経年の劣化や風化などにより損耗が激しい状態でした。さらに、東日本大震災により被災し、積石の欠け・剥離やズレ・落下などの大きな損傷を受け、早急な修復を必要としていました。修復工事では修復前後の測量調査と、積石の解体、洗浄、補修(接着や補強)を行い、損傷前の状態に復元するため積石の組立を実施しました。この一番高炉石組を含む「橋野高炉跡」は、現存する日本最古の洋式高炉跡であり、日本近代製鉄黎明期の象徴の一つとされ、非常に価値の高い文化財として評価されています。また、政府が2015年夏のユネスコ世界文化遺産登録をめざして推薦を決定した「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を構成する歴史的遺産の一つです。鴻池組では、今後も歴史的遺産の保存・修復に努めてまいります。



修復着手前(積石の落下やズレ・割れがある)



修復完了後(積石は解体し洗浄・補修後、組立)

さらに詳しく知りたい方は、
こちらのURLをご覧ください <http://www.konoike.co.jp/news/2013/20130121784.html>

PICK UP
04

最高の現場力×職場環境づくり

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 国土交通大臣賞を受賞

3R(リデュース=reduce:発生抑制、リユース=reuse:再使用、リサイクル=recycle:再資源化)に率先して取り組み、顕著な実績をあげたものを表彰するリデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の2012年度表彰において、鴻池組・極東興和異工種建設工事共同企業体 京都第二外環状道路灰方高架橋工事の工事事務所が国土交通大臣表彰を受賞しました。受賞した工事事務所では、施工により発生したセメント混じり汚泥を諸手続き後に構造物の埋戻しに全数量利用するといった取り組みや、ハイブリッドシステム搭載型バックホウを使用してCO₂の排出量を削減するなどの取り組みをしました。同年度には、その他7工事事務所が会長賞を受賞しました。また2013年度も京都産業大学(仮称)1号館新築工事のほか合計5工事事務所が会長賞を受賞しました。



表彰状(国土交通大臣賞)

今後も引き続き3R活動の充実を図っていきます。

さらに詳しく知りたい方は、
こちらのURLをご覧ください <http://www.konoike.co.jp/news/2013/20121102768.html>
<http://www.konoike.co.jp/news/2014/20131101966.html>

COHSMS(建設業労働安全衛生マネジメントシステム)を東京本店・名古屋支店で取得

東京本店ならびに名古屋支店において、2013年9月18日に建設業労働災害防止協会より建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS=コスモス)認定基準に適合している事業場として、認定を受けました。2014年には全店で認定取得の予定です。



COHSMS認定証(東京本店)

当社では協力会社事業主や労働者の協力のもと店社と工事事務所が一体となって、「計画(P)-実施(D)-評価(C)-改善(A)」の安全衛生活動のサイクルを継続し、安全衛生水準の向上を図り、労働災害を防止するとともに労働者の健康増進、快適な職場環境の形成、ひいては安心・安全・信頼の確立をめざしていきます。

さらに詳しく知りたい方は、
こちらのURLをご覧ください <http://www.konoike.co.jp/news/2013/20130919935.html>

災害時に確実に対応するためBCP訓練を実施

2012年8月にBCP(事業継続計画)を策定し、毎年、BCP全社訓練を実施しています。訓練内容は、安否確認システムへ全役職員が携帯電話などにより安否情報を登録する訓練や稼働中の工事現場の被災状況報告、各本支店による対策本部立ち上げなどの初動対応の確認、被災拠点のインフラが使用不可となることを想定した拠点間、関係先との通信連絡訓練、備蓄品の過不足の確認、協力会社との連携などです。BCPが有効に遂行されるためには、訓練による反省点の抽出、改善策の実行が不可欠です。建設業という社会資本整備に重要な役割を担っている当社は、今後も災害などに迅速に対応できるよう平時からBCPへの高い意識を保ち、今後もBCP体制の継続的な点検・改善を実施していきます。



対策本部

さらに詳しく知りたい方は、
こちらのURLをご覧ください <http://www.konoike.co.jp/news/2014/201311141014.html>